

海外臨床留学を目指す

K.K 先生 総合内科勤務開始時の学年
： 卒後 6 年目
研修期間
： 1 年

医学生時代から米国での臨床留学を志していましたが、いざ医師になるとやはり日常診療忙殺され、留学の十分な準備を行うことができていませんでした。

特に日本人医師の多くが同じ悩みを抱えていると思いますが英語のコミュニケーション能力に大きな不安を抱えていました。このままではいけない、と思い医師としての研鑽を積みながら、英語を中心とした留学の準備ができる環境を探していたところ、高槻病院総合内科が私のニーズを満たしてくれる、と確信しました。部長である筒泉先生はご自身もハワイ大学内科レジデントプログラムに所属していた経歴があり、かつ臨床留学を目指す医師をこれまでも何人もサポートされていました。

高槻病院では一年間毎日のように筒泉先生に英語で症例を発表し、ディスカッションする時間をいただきました。英語の症例発表を 1 対 1 で濃密に指導してもらえる環境は珍しく、本当に有難かったです。また臨床能力の鍛錬という意味では高槻病院総合内科は合併疾患の多い高齢者の増加している我が国を反映した患者が多くおられ非常に充実した環境であったと思います。種々の病態を併せ持つ患者の病棟、一般外来、及び救急外来勤務を通じて多くの経験を積み、教育熱心な指導医諸先生方からは非常に多くのことを学ばせていただきました。雰囲気もよく、後期研修医や初期研修医も自分の意見を言える環境でありお互い学び合う環境に強く共感しました。留学の準備となっただけでなく、1 人の医師として成長をさせてくれる環境であったと強く思います。

海外の臨床留学の準備、という比較的稀な理由で私は総合内科で勤務させていただきましたが私の同僚や後輩医師もそれぞれの夢を持って総合内科でのトレーニングをされています。総合内科医として研鑽を積む先生もおられますし、専門内科医になる前の短期トレーニングをされる先生もおられました。医学知識を教えてもらうというだけなら多くの施設で

もできるかと思いますが、それぞれの医師に対してビジョン及び短期長期ゴールを確認され、それに合わせたトレーニングを考えてくれるこのプログラムはとても先進的であったように思います。

一度しかない医師人生です。後悔のないよう自分の夢をしっかりと持って頑張りたいと思っていましたが高槻病院総合内科はそれを暖かくサポートしてくれる環境でした。